

自然な自分に出会える山のオフィス

KOTELO

しんぶん

Vol.
01

2022
Spring

TAKE
FREE

連載
KOTELOってどんなところ？
アナタの、働き方、のぞき見。
あしくらNEWS
KOTELO本日より

Hello, We Are KOTELO Times

創刊記念インタビュー
はじめまして、
KOTELOしんぶんです。



KOTELOしんぶん Vol.01 令和4年4月1日発行 発行元：KOTELO www.sanagi.net

連載 あしくらNEWS



毎年3月13日に立山町芦峯寺の閻魔堂で行われる「おんば様のお召し替え」。通常は地元の女性のみで行われるのですが、佐伯てるよさんから誘いを受けてKOTELOスタッフ大野もお手伝いしてきました。お召し替えは、地元で「おんば様」と呼ばれ親しまれている女性の守り本尊・うば尊の着物を、感謝と祈りを込めて召し替える伝統行事です。

2月21日 白布の準備

芦峯公民館でお召し替えで使う白布を裁断しました。15体あるおんば様はそれぞれお姿が違い、本尊に合わせた大・中・小の型に沿って白布を裁断しました。



3月3日 縫い上げ

裁断した白布を、ひと針ひと針丁寧に縫い上げていきました。作業中はたわいもない話で盛り上がり、歴史的行事ですが日常のような風景に混ざってもらえて、とても新鮮で楽しかったです。

3月13日 お召し替え

集落の女性たちが閻魔堂に集まり、お召し替えを行いました。江戸時代から絶えず受け継がれてきた伝統行事が、無事終了したことに安堵。立山信仰のかつての姿を偲ぶ貴重な体験をさせていただきました！



2022 SCHEDULE

4

April

- ティーパーティー
みんなでハーブティを楽しむ会



5

May

- 母の日
スワッグなどを作るフラワー教室
- あしくらさんぽ
日常から離れて五感を使う体験型イベント



6

June

- カラダウィーク
- フクールフェア



イベントの詳細情報は
ホームページにて
随時更新しています
www.sanagi.net



KOTELOトピック

イベント情報のご案内



株式会社山田写真製版所さま 展覧会開催



KOTELOオープン

2021 ARCHIVES

- 8～9月 株式会社山田写真製版所さま 展覧会開催
創業100周年を迎えた山田写真製版所さまの印刷作品のご紹介、イベントを行いました。
- 9月 KOTELOオープン
レセプションを開催し、多くの関係者の皆さまに訪れていただきました。
- 10月 フクールフェア2021開催
KOTELO運営元である株式会社フクールのイベントを開催し、特別ワークショップ等を行いました。
- 12月 ジムニー納車
KOTELO初の施設専用車ジムニーを納車しました！山道や雪道に、四駆は大活躍です。



ジムニー納車

連載

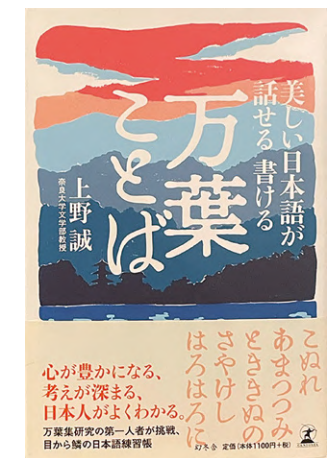
KOTELO本日より



おすすめの一冊

「美しい日本語が話せる
書ける 万葉ことば」

著者：上野誠 出版社：幻冬社



万葉集研究の第一人者である上野誠さん著書の本。万葉集に使われている、美しい「万葉ことば」を数多く紹介しています。「言葉を鍛えるということは、心を磨くということと一体である」と著者が語るように、日本語が持つ言葉の深みを知れば、心がより豊かに考えが深まります。



自然豊かなKOTELOでぜひ読んでいただきたい一冊です。昔ながらの美しい言葉が、より心に響くのではないかと思います。自然の音に耳を傾け、美しい言葉を発してみても？

今回の紹介者

田島 悠紀子 さん

FMとやま「grace」ラジオパーソナリティー。
CMナレーションや司会などマルチに活躍。

はじめまして、KOTELLOしんぶんです。

いくつもの縁とつながりが 重なり生まれた場所

まずは、KOTELLOをオープンするきっかけについて教えてください。
2020年夏に、仕事で山岳ガイドの佐伯知彦君とみくりが池温泉へ行った時に、二人で「こういう所で仕事ができたらいいな」と話をしました。実はそれ以前から自然の中で働くことや柔軟な働き方について興味を持っていました。というのは、2009〜10年頃から、IT業界では大手企業が地方にオフィスを構える動きがあり、彼らのカルチャーに影響を受けていたのかもしれない。その後、知彦君から母校の旧立山芦峯小学校を利用して自然体験施設を作りたいと誘いを受けたことがKOTELLOの原点です。

その後、どのようにして形にしていたのですか？

KOTELLOの計画が始まったタイミングでさまざまなIT企業の社長と話をしました。すると異口同音で、「コロナが広がってフルリモートになって、仕事は効率よくまわすことが出来るようになったけど、社員同士の繋がりが薄れていっているし、新入社員が孤独を感じている」という言葉が聞かれました。そして、「立山の



ような自然豊かな場所に、年に一回でも二回でもメンバーで行って仕事が出来れば嬉しい」とも言ってくれました。

IT企業としてお客様の生産性向上や売上拡大、業務効率の向上を提案してきましたが、それ以上に、コミュニケーションやチームワークなどが大切なのではと考えていましたし、仕事は「作業をこなす」ものではなく、人間の可能性を高めて、世の中の役に立つものだと考えていました。

そういった仕事観を表現出来る場所として、KOTELLOが存在するのであれば、「やる価値がある」と思いました。その方が絶対みんな楽しいだろうし、内発的な喜びを感じられて、仕事はもっと素敵なものになるはずだ。そんな社会や世の中に、問いを投げられる場所を作りたいと考えました。



KOTELLOができるまで

2020年夏

みくりが池温泉からネットワークに関する相談を受け、山岳ガイドの佐伯知彦さんと立山に登る。この時に二人で「こんなところで仕事が出来たらいい」という話で盛り上がる。

2020年9月

佐伯さんから廃校になった芦峯小学校を使って自然体験施設を作り、その2階をリモートワークができる施設として運営してもらえないかと誘われる。

2020年10月

IT企業の社長達との話の中で、「会社とは、仕事とは何だ？」と考えさせられる。

2020年11月

仕事をもっと人間らしく、もっと喜びに溢れるものに。そして、「ハタラク」ということが喜び溢れる社会づくりに貢献したいと考え、その実現の場が作れないかと思索する。芦峯寺の可能性を探索しだす。

2020年12月

「やろう！」と決意する。
11年振りに芦峯小学校活用の公募が出され、プロポーサルの結果、2021年3月に株式会社フクールの利活用案が選ばれる。

2021年8月10日〜9月22日
KOTELLOプレオープン。

2021年9月24日

山のオフィス・シェアオフィス・自然体験型研修施設「KOTELLO」がグランドオープン。

バケーションではなく、 ワークを中心とした働く場に

「最近「バケーション」も流行っていますが、KOTELLOはちょっと違いますね。」

ワーケーション施設は全国にいくつもありますが、つぶさに見ていったら、それは観光の呼び方を変えただけだと気が付いて(笑)私たちは観光ビジネスをしたいわけではなく、ハタラクというものにスポットを当てた場所を作ったかった。このKOTELLOがある芦峯寺という村は、立山信仰の中心的な役割を担ってきた村なんです。江戸時代には、年間6千人もの人が「新しい自分に生まれ変わりたい」と願って、この芦峯寺に来ていたのです。明らかに「場の力」があると感じました。

また、小学校という点も魅力を感じました。誰もが小学生だったじゃないですか。小学生は五感をフルに使っていたし、身体も使っていた。自分らしさや自分の可能性に気が付けるのではないかと思います。この芦峯寺という場所と、小学校という装置が合わさったら、日本のどこにもない、唯一無二の場所にできるのではないかと考えました。

KOTELLOはフィンランド語で「蛹サナギ」を意味するそうですね。
そうです。青虫が蝶になるように、KOTELLOで自分の可能性を信じて挑戦し、全く新しい自分へと羽ばたいていってほしい、という想いが込められています。立山に登って新しい自分に生まれ変わることも一緒かなと考えてKOTELLOという名前になりました。周辺の自然や歴史、脈々と繋がる文化や、集う人たちの交流を通して、働き方に変化を与えたり、働く人の人間的知性を高めたり、仕事や働くことに対する考え方をもう一度確認できる場所にしていきたいです。

「周りの反応はどうでしたか？」

一番驚いたのは、社員がみんな面白そうって言うってくれたことです。逆に周りの

KOTELLOはメッセージ。 これからの働き方の発信源になりたい

「どんな人が利用されていますか？地域の人のつながりは？」

一番多いのは、ワーキングスペースとして活用される方。中には、日常の雑務から離れて、普段なかなかできない自分の可能性にチャレンジしたり、会社員の未来のために時間を使っているという人もいます。他にも「学校の利活用を考えている見学者の方や山田写真製版所さんのように企画展を開催される方も。いつもとは違うことに挑戦できる場所、それこそKOTELLOがある意味だと感じています。10年以上、誰も利用していなかったで、地元の人たちは寂しい気持ちになっていったのだと思います。ですから、オープンした後、「明かりがついていることが嬉しい」と言ってくださる方もいました。地元の方々には本当にお世話になっています。最近では、KOTELLOのスタッフが芦峯の伝統行事に参加し、積極的に地域と関わっています。これからイベントも色々と思案中です。

「これまでの印象的な出来事を教えてください。」

これといった出来事ではないのですが、芦峯寺の皆さんと関われば関わるほど、現



代では失われつつある互恵互助の精神や「あるものでなんとかなる」という再起力を強く感じます。それらは、こんな時代だからこそ大切なことだと考えています。芦峯寺の良さをKOTELLOを通して多くの人に触れてほしいです。

「福崎さんにとってKOTELLOとは？」

世の中に対する「メッセージ」です。これからの働き方における「心の有り方」だと思っています。誰もがいきいき働き、自分の可能性を広げられるような場所にしていきたい。そのためには、KOTELLOの考えが世の中に正しいということを証明するために、ビジネスとしての結果を出さないとダメだと思っています。KOTELLOのような働き方の人が増えれば、都会のと真ん中でも同じことができるかもしれない。
KOTELLOが発信源になり、このような考え方を持つ人や場所が増えていってほ

PICK UP! PERSON

(株)フクール 代表取締役社長
ふくさき ひでき
福崎 秀樹
HIDEKI FUKUSAKI



Profile

OA機器販売・サポートや各種ソフトウエアの販売・開発、IT環境の構築などの事業を行う「株式会社フクール」の代表取締役社長。KOTELLO発起人。「人材＝人財」の考えの下、子どもや社員の教育にも力を注いでいる。

家族構成／6人(奥さま、お子さま4人)
趣味／[ギター]お酒片手に家でギターを弾くのが好き。[読書]家には、図鑑や小説、詩など様々な書籍(定期的に内容が変わる)が並ぶ本棚「福崎リビング」がある。[登山]定期的に行きたくなる。

休日の過ごし方／映画館やサウナへ行く、子どもの野球の審判、登山。
KOTELLOのおすすめ／自然が見える部屋で過ごすこと、外に出かけて地元の人や自然と触れ合うこと。





KAKI CABINET MAKER
社長 柿谷 朔郎 さん



アナタの、働き方、のぞき見。

このコーナーでは、KOTELLO スタッフが気になる企業様を訪ねて、
社長やスタッフさんの仕事への想いや働き方についてインタビューします。

今回は、立山山麓の栗巣野で無垢材の家具を製作する「KAKI CABINET MAKER」に伺いました。



KAKIの家具は、使う人に合わせて一つひとつ手作業で作るので、例えば椅子一つとっても座り心地は違います。無垢の良さ、温かさを感じられるものを作りたいですし、美しく、使いやすく、肌触りが良いのも特徴です。

Q2 柿谷さんにとって、KAKI CABINET MAKERとは？

元々、KAKIは父と叔父3兄弟で始めた家具工房で、3人が本当に楽しそうに家具を作っている姿を見て、なくなるのはもったいない、守りたいと思ひ、跡を継ぎました。家具は「生活の道具」ですから、作品を作るアーティストではなく、使う人のための道具を作る「職人」でありたい、そんな想いを持ち続けています。

Q1 どんな仕事をしていますか？

無垢材を使用したオーダーメイドの家具を作っています。住宅用のチェアやデスクなどの家具をはじめ、施設・店舗用家具や内装コーディネート、まな板やラックなどの日用木工品、最近では仏壇の製作も手掛けています。店舗では、KOTELLOのディレクターズチェアや富山市のイタリアン「BASSA」、絨毯とキリムの専門店「Ariana」、氷見の「SAYSFARM」などで使われています。



役目を終えて帰ってきた家具

Q3 これまでで印象的なエピソードはありますか？

昔、父・叔父が店舗用に製作した家具が、役目を終えてKAKIに帰ってきたことです。工房の2階に展示してあるのですが、銀座にあった有名ビートルで使われていた家具も事務所で使われていた家具も、風合いや味わいに深みが増して、大切に使われてきたんだなと感じました。直したりメンテナンスをしたりしながら、何十年と使い続けることができるのも木の家具の魅力だと思います。

Q4 今後挑戦していきたいことは？

定番の家具製作をベースに、人と関わりながら新しい事にも挑戦していきたいです。例えば、木と鉄を組み合わせた家具とか。この仕事をしていると、同じようにものづくりをしている人や建築家と出会うこともありますが、時には意見がぶつかり合うこともあります。そういう人と関わることで、オリジナルの物を作っていきたいなと思っています。

おしごとFile

- 好きなコト
- ロードバイク
- 好きなコトバ
- ウソのないように
- 好きなモノ
- 仕事道具の
- カンナ、彫刻刀



KOTELLOってどんなところ？

LOCAL VOICE 地元の方の声

まんだら食堂店主

佐伯 てるよさん

Q1 KOTELLOができてどう思った？

最初は、「小学校跡の広い場所をどう使うの？」と思いましたが、誰かが居て灯りが付いていることがとても嬉しいですね。芦峯の郷土料理を提供している「まんだら食堂」をやっているのですが、帰りにKOTELLOの前を通る時にどんな様子が見えるのが楽しみになります。人が少なくなってきた村ですが、みなさんに村の歴史に触れ、雰囲気を感じてもらう、いろんな体験をしてもらいたいです。

Q2 これからのKOTELLOに期待することは？

若い人にどんな芦峯に来てもらって、村の人たちと馴染んでもらいたいという想があります。私は楽しいことをするのが好きなので、KOTELLOのスタッフさんも、KOTELLOに来た人にも村の行事に関わってほしいです。村の人たちと一緒に何か楽しいことをやってほしいです。

Q3 KOTELLOを一言でいうと？

思い出がたくさん詰まった場所。自分が卒業した学校でもあり、子どもたちと郷土料理と一緒に作ったりした場所で、数えきれない思い出があります。



まんだら食堂名物！
「血の池ラーメン」

山岳ガイドさんでCafeオーナー

佐伯 知彦さん

Q1 KOTELLOができてどう思った？

地域の1つの起爆剤として活性化につながっていると思います。芦峯は、曼荼羅や立山信仰の拠点として歴史があり、雰囲気や独特の感じがネパールの山岳民族のシェルパ族とすごくよく似ています。共通点は、商売度外視で互恵互助の精神が息づいていること。今の時代に薄れてきている互恵互助の意識はとても素晴らしい、残していくべきですが、高齢化でいろんなことが回らなくなっています。そんな中でKOTELLOは、一つの打開策ではないでしょうか。

Q2 これからのKOTELLOに期待することは？

企画してもらえたら何でもやりたいです。自然体験型の研修や社長の武者修行もやりたいですね。でも、それを通してどうなっていくのか、芦峯がこうなっていくことは思っています。ただせっかくこんな素晴らしい環境があるのだから、それらに触れることで富山がもっと好きになるのではないかと感じています。

Q3 KOTELLOを一言でいうと？

自分が参画できなかったことへの申し訳ない気持ちと、今後どういう風に爆発して連鎖反応し、新しいものが生まれるのが楽しみです。



河上金物株式会社代表取締役社長

河上 森さん

Q1 KOTELLOを利用している感想

KOTELLOについては、以前より交流のあるフクールの福崎さんから聞いていて、昨夏にプレオープンした時から通っています。会社にいると、第1領域、重要かつ緊急性が高いの仕事ばかりに追われてしまいがちですが、会社の未来づくりにつながる第2領域、重要だけれど緊急度は低い仕事、例えば人材育成や採用活動などに時間を使えるようになりました。今は月に1回は「KOTELLOの日」と決めて、普段考えられていないことに時間を使い、じっくり向き合っています。

Q2 KOTELLOでのお気に入りの過ごし方

登山が好きで、いつも山が見える「教室室堂」を利用しています。山に抱かれて感じる、ここに身を置いておくだけで満たされた気分になります。今後は、忙しくてなかなか普段じっくり話せない幹部社員と、天気がいい時はグラウンドに行ったりして、将来の理想を語り合うような深い対話の時間をKOTELLOで作ってみたいです。

Q3 KOTELLOを一言でいうと？

止まり木。社長として飛ぶように休まず仕事をしながら、ちょっと羽を休めながら未来を見据えられる場所です。



株式会社理想経営 所属

古木 康大さん

Q1 KOTELLOを利用している感想

環境を変えて働くことや予期しない出会いと遭遇できることが好きで、様々なコワーキングスペースで仕事をしています。KOTELLOは知人のSNSを見て知り、元小学校を改装した本格的なスペースづくりをしている点に興味を湧き、利用するようになりました。富山は空気がキレイな所ですが、芦峯はそれ以上に空気が澄んでいて、周りに何もない非日常感や自由さが感じられています。予想に反してハイグレードな設備や安定したネットワーク(Wi-Fi)があることもポイントが高いです。

Q2 KOTELLOでのお気に入りの過ごし方

お気に入りの椅子で仕事をし、仕事の合間にちょっと外を歩いたり…。雰囲気慣れしてくると、自分がこの場所の一部になったような感覚を味わえます。また、朝昼夜と風景が変わる非日常感も味わってほしいです。春の桜や秋の紅葉など、芦峯のエモーションな四季を感じられるのも楽しみです。

Q3 KOTELLOを一言でいうと？

秘密基地。幼い頃に作るアナログな秘密基地ではなく、ハイテクな設備やおしゃれな椅子などがある新しい形の秘密基地であるところが気に入っています。

VISITOR VOICE 訪問者の声